

皆様はいかがお過ごしですか？。日本の学会で発表するのもいいですが、たまには国際学会の発表もいいですよ。学会と言っておけば周りから咎められることもなく、ついでに少々の観光も出来ます。ただ学会での公用語が英語というのが、ちょっと気がかりでしょうか？発表まではハラハラドキドキの連続です。でも発表が終わった後の爽快感はたまりません。まるで長年の便秘が治ったような清々しさ。あ、ちょっと下品でしたか？さて、遅ればせながらではありますが、我が学会のクラルンプール国際学会の報告です。私に与えられた使命は現地レポートです。恥ずかしい話なのですが、実はこの旅に出るまでマレーシアの正確な位置すら分かってませんでした。インドシナ半島の先っぽだろうくらいの見当はついていましたが、かなり赤道に近いんですね。でもひょっとしたら今年の夏は日本のほうが暑かったんじゃないかと思えます。

さて初めてのマレーシアは戸惑うことも多い旅でしたが、最終的にはマレーシアがすっかり気に入ってしまいました。何がと言っ、まず食べ物はおいしいし、何より物価が安いのが気に入りました。人々は皆のんびりムードでおおらかに暮らしてるようです。国際会議だというのにいつものような緊張感はなく、発表者も聴衆も和やかな雰囲気でした。まあ、マレーシアなまりの英語で早口で質問されると何言ってんだか分からなくなるという場面もよくありましたが、皆さんおおらかだし、若干おおざっぱなので、どってことはなく終始和やかに発表、シンポジウム、講演と進行して行きました。ただ仕方ない事なのですが、当然のごとく予定は大幅に遅れるので最後は大慌てというシーンも多かったようです。困ったことに、マレーシアはイスラム教国であるため公式の行事ではアルコールが出ません。マラヤ大学がせっかく歓迎晩餐会をやってくれてご馳走をテーブル一杯に並べてくれるのですが、乾杯にビールは出ません。代わりに出てきたのは得体の知れない赤いジュース、これを現地の人はおいしいそうにグビグビ飲んで、美味そうにご馳走をたいらげて行くのですが、こちらはアルコールがないと咽が通らないタチなので困りました。もちろん、町に出れば普通にビールは飲めますが、他の食べ物と比べるとアルコール類は一般的に少し割高でした。歓迎会では現地の伝統的なダンスが披露されました。描いておいたのでご覧ください。

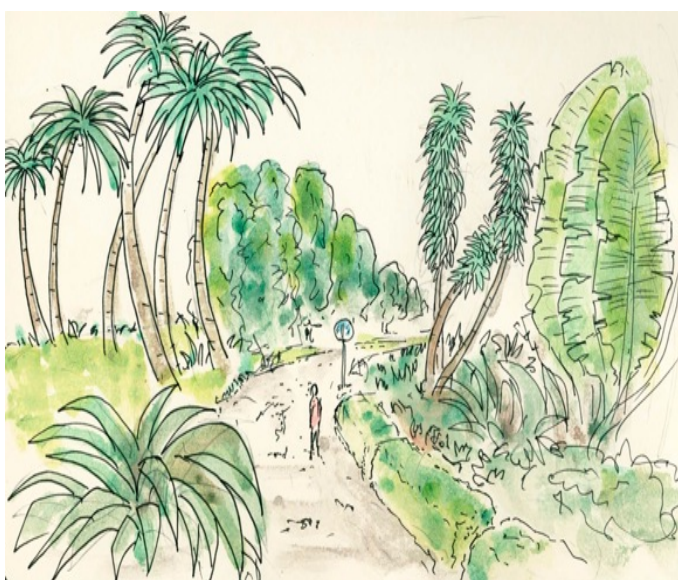


クアラルンプールの町は超近代的で、モノレールが縦横に走り高層ビルが立ち並んでいます。飛行場から町の中心部に行くにもアクセスが良くてKLエクスプレスに乗れば、わずか30分です。でも間違っ、タクシーに乗ると1時間半もかかり、しかも1万円も払わされるそうなのでご用心。

↓ロイヤル・チュランホテルのロビーで時間潰しに描きました。



うちの学会の先生方の多くはマラヤ大学が近いという理由でヒルトンホテルに泊まれたのですが、私は町中のロイヤル・チュランという吉岡先生お勧めの宿に泊まったのですが、これが安い割に超豪華で満足でした。このホテルのロビーで1枚描き、また最後の日はカリコサ・セリネグラという郊外の立派なホテルに泊まりました。ここでも2枚ばかり絵を描きました。写真がないのでこれで我慢してください。



↑カリコサ・セリネグラというホテルの広大な庭です。

それから食べ物ですがブキッ・ビンタン駅近くの小さな中華料理店で食べた中華定食が忘れられません。3千円は最初少しボラれてるのかと思いましたが、とんでもありませんでした。まずはフカヒレがドーンと出てきて、続いてアワビ、ホタテのステーキ。野菜もいい感じでしたし、最後にチャーハンが出てきた時は感動的でした。

と、まあ学会のレポートなのか観光案内なのか分からない文章になってしまいましたが、皆さんも是非、国際学会におかけください。きっと新しい発見がありますよ。

同じくカリコサ・セリネグラのレストランの入り口、姿勢のいい執事のいる感じ
良い宿でした。→



(日本保健医療行動科学会ニュースレター第74号より転載)